

岐阜県立揖斐特別支援学校開校  
 ～地域に根づく学校を目指す～

旧谷汲小学校が改装され、4月から岐阜県立揖斐特別支援学校としてスタートしました。

揖斐特別支援学校は、障がいを持つ児童生徒、また、医療的なサポートが必要な児童生徒が安心して登校でき、個別の学習指導を行いながら自立支援を行う小学部・中学部・高等部を有する学校として開校されました。

4月9日(木)に行われた開校式では、新入生の幼児、児童、生徒の計39人を代表して高等部1年の竹内博輝さんが「自分の力を発揮して、いきいきのびのび輝きます。」と宣誓されました。また、谷汲中学校1年生32人による谷汲踊が披露され揖斐特別支援学校の開校を華やかに祝いました。



▲岐阜県立揖斐特別支援学校(旧谷汲小学校)



▲谷汲中学校生徒による谷汲踊



▲宣誓の様子

学校法人西濃学園中学校が開校  
 ～法人化で指導力を強化～

4月10日(金)、東横山の旧藤橋小中学校で学校法人西濃学園中学校の開校式が行われました。

西濃学園は、平成3年に高校教職員3人によるボランティア団体でスタートし平成17年にはNPO法人となり、旧藤橋小中学校の校舎で不登校の児童生徒が学校に復帰できるよう心のケアを行ってきました。

開校式には、学園の役員や地域の皆さんなど約130人が出席。式典の最後には、西濃学園の校歌が披露され、来場者の皆さんは、心地よいメロディーに耳を傾けていました。



▲西濃学園開校式の様子(旧藤橋小中学校体育館にて)

イビデンの森で植樹活動  
 ～森林保全・地球温暖化防止に～



▲熱心に植樹作業が行われました

昨年8月に、イビデン株式会社、NPO法人揖斐自然環境レンジャー、岐阜県および揖斐川町の4者で締結した「生きた森林づくり協定」に基づき行われている、平成21年度の「イビデンの森」森林づくり活動が始まりました。この取組みは、岐阜県の森林保全や地球温暖化防止のために企業参加による森林づくり活動を行うものです。

4月11日(土)に今年度初めての植樹活動が行われ、東横山のイビデンの森にイビデンの社員とその家族、地域の皆さんなど約100人が、サクラ50本、ヤマボウシ10本、はなもも10本の植樹をしました。

今後、イビデンの森では、下草刈りなどの保育事業も予定されています。



▲真剣に作業する生徒の皆さん(北和中学校にて)

4月21日(火)に、北和中学校の生徒が、町内の間伐材でプランターボックスを作り、苗木を植えました。この苗木は、10月に徳山ダム上流に植樹される予定です。

近年、野生動物による農林産物の被害などの事例が多く、餌となる木の実が少ないことが原因のひとつといわれており、実のなる木が選ばれています。

町内の小中学校で、実のなる木の苗木のホームステイ活動が行われています。この活動は、生命の水と森の活動センターとNPO法人揖斐自然環境レンジャーの主催で行われ、ブナ・コナラなどの苗木5品種およそ80本を小中学校で約半年間育成するものです。

苗木を育ててから植樹  
～実のなる木のホームステイ活動～

(社)岐阜県緑化推進委員会  
揖斐支部長表彰  
長屋 佐伊吹 様  
小津 区 様  
上ヶケが 流生産森林組合 様

4月26日(日)、揖斐高原貝月リゾート(日坂)で、第59回揖斐緑と水のまつりが行われました。このまつりは、「広げよう緑は地球の宝物」をテーマに、清らかな水を育む大切な緑をさらに大きく育てるために行われています。

あいにくの雨の中行われた式典では、地域緑化に貢献された1個人・2団体が表彰されたほか、アトラクションとして三倉の太鼓踊りが披露されました。

表彰された方々は、次のとおりです。



▲表彰伝達の様子(貝月リゾートにて)

森林の恵に感謝して  
緑化功労者を表彰!



▲参道を活気付けたヨサコイの様子

この町営谷汲門前駐車場では、11月に、もみじまつりが開催される予定です。

飛騨・美濃さくら33選に選ばれている、谷汲山参道の桜並木を一目見ようと、大勢の観光客が訪れました。4月12日(日)には、町営谷汲門前駐車場で、さくらまつりが行われ、夏を思わせるような陽気の中で、およそ2万人の観光客は、いびおはば太鼓や谷汲踊(県重要無形民俗文化財)のほか、ヨサコイや歌謡ショーなど、次々に行われる催しを堪能していました。

春を飾ったさくらまつり  
～谷汲山門前が大賑わい!～

2009 揖斐高原花桃フェスタが、4月26日(日)、揖斐高原貝月リゾート(日坂)で行われました。当日は、あいにくの雨でしたが、三倉の太鼓踊りや久瀬小中学校の児童生徒の合唱などが披露されました。



▲久瀬・藤橋保育園の園児による鼓隊演奏の様子

揖斐高原で花桃フェスタ  
～揖斐川町の花はなももの中で～

会場では、バザーや物産販売も行われ、来場者を楽しませていました。また、今年で2回目を迎えるフラワープランターの「花・美コンテスト」も行われました。



揖斐祭り子供歌舞伎  
〜古より伝承される技と心〜

岐阜県重要有形民俗文化財に指定されている豪華絢爛な5輦の芸軸が曳き揃えられ、5月4日(月)・5日(火)、三輪神社で、華やかな衣装で飾った稚児役者による子供歌舞伎が披露されました。

揖斐祭りは30余年の歴史があり、上新町組の子どもたちにより『恋女房染分手綱・重の井子別れの場』が上演されました。  
今年2日間で約5万人の観光客が訪れました。



▲堂々と演じる子どもたち(三輪神社にて)

3年に一度の舞  
乙原歌舞伎



▲迫力満点の乙原歌舞伎(公正公民館にて)

5月3日(日)、久瀬公正公民館で、乙原歌舞伎保存会による『絵本太功記十段目尼ヶ崎の段』が上演されました。

乙原歌舞伎は3年に一度、地域の皆さんにより上演されています。会場には、待ちわびた約300人の皆さんが集まり、迫力のある舞台に魅了されていました。

子どもたちもシナイ背負い舞う  
北方踊り

町重要無形民俗文化財に指定されている北方踊りが、4月20日(月)、北方神社(北方)で披露されました。

北方踊りは、室町時代のはじめに、雨乞いや豊年を祈願して踊ったのが始まりと伝えられ、北方の反原地区で伝承されてきました。また、昭和48年以降は、北方地区で保存会を中心に、現在まで継承されてきました。踊りには、きたがた幼児園の園児や北方小学校の児童も参加し、集まった地域の皆さんは、立派に舞う子どもたちに、たくさん拍手を送っていました。



▲「シナイ」を背負って踊る子どもたち(北方神社にて)

東津汲鎌倉踊  
〜勇壮華麗な伝統の舞〜



▲クジャクの羽を形どった飾りが華やかです

4月29日(水)、白髭神社(東津汲)で、岐阜県重要無形民俗文化財の鎌倉踊が披露されました。

鎌倉踊は、武者踊り、太鼓踊り、またはシナイ踊りとも呼ばれ、源氏が平家を滅ぼしたときに、戦勝を祝って踊ったものと伝えられています。

この日は、関係者や地域の皆さんなど約200人が集まり、神社の境内では、5色に彩られた飾りが華やかに舞いました。

また、久瀬振興事務所隣の「やまびこの郷」駐車場でも披露され、施設の入所者などが楽しみました。